

# 米国等との大学間交流形成支援

資料 4  
2023.9.8

令和5年度予算額

5.5億円（新規）



## 背景・趣旨

- ◆ 国際競争力の土台となる研究力が世界トップにあり、かつ民主主義や人権、法の支配といった基本的な価値観を共有し、国際的に最も重要なパートナーである米国との間で、大学・学生間交流を促進し、戦略的な国際ネットワークを草の根から強化することは、経済安全保障の観点からも極めて重要。
- ◆ 新型コロナウイルス感染症により停滞した留学を、オンラインも活用しつつ、質保証を伴った教育プログラムとして回復・伸長させる必要があり、国際オンライン教育を世界的に先導する米国と教育プログラムを協働して構築することは極めて有用。
- ◆ 我が国大学のイノベーション・科学技術分野の先進性を、世界トップ水準の大学との研究・教育交流の中で更に伸長しつつ、米国中心に世界各国で取組が進むSTEAM教育やDX、GX等の分野の交流に取り組み、真のグローバル人材を育成する新たな国際教育環境モデルを構築することも重要。

## 事業概要（事業期間：2023～2027年の最大5年間）

- 米国を軸とした大学間交流を推進し、日米合同で事業を展開（カナダ等、戦略的な第3国の参画も可）。
- COIL/VE※等、質の伴ったオンライン教育手法を活用した最先端の国際教育交流基盤を構築し、実渡航の価値をより高めつつ、バランスの取れた双方向型の5万人規模の交流を目指す。

※オンラインを活用した双方向の国際協働学習方式やバーチャル空間で米国学生等と主体的に学び合う大学間交流

- 文理の枠を超えて課題解決に取り組むSTEAM教育やGX、DX等の成長分野に関する事業も推奨。

### ● 事業規模

√タイプA（米+a交流型）※STEAM教育やDX、GX等分野の交流事業を5割程度

3,400万円×12件程度 = 40,800万円

√タイプB（交流+拠点形成・プラットフォーム構築型※ 3大学以上が連携）

14,200万円×1件 = 14,200万円 ※COIL/VE、JV-Campus活用等、オンラインを全面活用できる新たな国際交流環境整備を担う

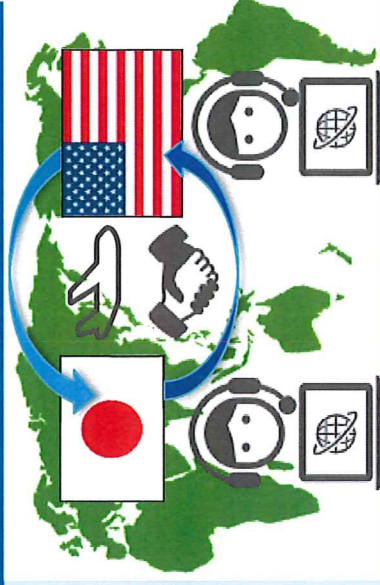
## 取組（アウトプット）例

- 米国連携先大学と連携して、STEAM教育を開発・提供、またはDX、GXに必要な専門知識を得る教育プログラムを設置しつつ、COILやバーチャル空間の交流等も含め、日米学生が協働し、世界的課題解決に向けた戦略立案・計画策定・実践を行う取組。
- JV-Campusにおいて、日本語教育や日本文化等のコンテンツを共有しつつ、米国連携先大学とCOIL/VE等を活用し、大学全体で多様な学生交流を行い、実渡航を含め年間400名規模の交流を行うプログラムを構築。
- 中長期的な日本への正規留学生増加も見据えた、JV-Campusを活用したリクルート活動やオンライン科目の入学後の単位認定等の仕組を構築。
- 大学と産業界がパートナーシップを組み、国際的な人材育成とリクルート活動等を目的に、インターンシッププログラムを企画・実施。

### アウトカム（成果目標）

### インパクト（国民・社会への影響）

- 最先端の国際教育交流基盤の構築し、国際化を進める多数の大学が活用することで
  - ▶ 最先端の教育研究に触れることで、世界で活躍するグローバルリーダーを創出
  - ▶ 多くの日本人学生のマインドセットの変革に寄与。
- 国際通用性あるSTEAM等の教育プログラムによるDX、GX等分野を支える人材育成。
  - ▶ イノベーション・科学技術の進展による経済面・技術面での国際競争力強化



## 令和5年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	東日本国際大学、福島工業高等専門学校	タイプ	A
事 業 名	未来へつながるコミュニティを創る日米大学間復興創生交流事業		
海外の相手大学	ワシントン州立大学トライシティーズ校、コロンビアベイスン短期大学		

〔評価コメント〕

本事業計画は、我が国にとって極めて重要なテーマである原子力災害からの復旧、復興に関して共通の課題を持つ米国ワシントン州ハンフォード大学と協働する計画となっており、課題解決に対応できる「創造的文理融合型人材」育成へ実現性の高いプログラムとして高く評価できる。

特に、各モジュールを Module I (Resilience)(COIL/VE)と Module II (Innovation)(実渡航)の2つで構成し、各モジュールを多彩なイベントで構成している点は優れている。各モジュールには参画する日米の大学の他に、公益団体、地方公共団体、民間企業の参加も組み込まれており、学生にとってもより実践的な学びの多いプログラムとなっている。ハンフォードトライデックと福島浜通りトライデックの交流や、相手大学との交流も既に始まっており、本事業の順調な推進が期待できる。また、質の保証の観点からも米国のア krediteーションやアセスメントの手法を取り入れていることも評価できる。将来的には、オンラインの手法を取り入れ事前学習を確実に行った上で、日米双方の学生がお互いの地域をリアルで体験する交流の機会をより多く作り、原子力災害から地域の復興創生へ、若い世代ならではの新たなアイデアを吹き込んでもらうことを期待する。

一方で、目指す人材像に求める資質・素養・能力が多いことに加えて、達成水準も高く設定されているため、学生の能力（語学力・教養力）がその水準に見合うまで成長させるためには、全学的な協力体制とともに、個々の教員のきめ細やかな指導が不可欠である。KPI を作成し、全学体制で達成を目指していくことが必要である。

最後に、今回選定された貴学においては、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。また、本事業は、補助期間終了後は自立的に事業を継続することが前提とされていることから、継続的かつ発展的に質保証を伴った事業を展開されたい。

令和5年度大学教育再生戦略推進費  
「大学の世界展開力強化事業～米国等との大学間交流形成支援～」  
選定結果

		タイプA：交流型	タイプB：交流＋拠点形成・プラットフォーム構築型
国立大学	申請数	14	0
	選定数	10	0
公立大学	申請数	1	0
	選定数	0	0
私立大学	申請数	2	1
	選定数	2	1
合計	申請数	17	1
	選定数	12	1

令和5年度大学教育再生戦略推進費  
「大学の世界展開力強化事業～米国等との大学間交流形成支援～」  
選定大学一覧

タイプA：交流型

計12件

整理番号	設置形態	申請大学名（代表申請大学）	事業名	分野	相手大学等名
AA01	国立	筑波大学	インクルーシブなスマートソサエティを創成する国際スタートアップ人材の育成	DX	オハイオ州立大学（米国）〈計1機関〉
AA02	国立	東京外国語大学	太平洋を「架橋」するブリッジ・パーソン養成プログラム	STEAM	サンディエゴ州立大学（米国）、カリフォルニア州立大学ノースリッジ校（米国）、サンフランシスコ州立大学（米国）、ハワイ大学マノア校（米国）、ネブラスカ大学カーニー校（米国）、カリフォルニア大学リバーサイド校（米国）、カリフォルニア大学アーバイン校（米国）、フィリピン国立大学（フィリピン）、アテネオ・デ・マニラ大学（フィリピン）、デラサール大学（フィリピン）、ソウル大学（韓国）〈計11機関〉
AA03	国立	東京芸術大学	STEAM教育を活用した情報メディア革新時代の日米映像クリエイター育成	STEAM	南カリフォルニア大学（米国）〈計1機関〉
AA04	国立	金沢大学	多層型日米連携協働教育プログラムによる次世代グローバル人材育成	該当なし	ニューヨーク州立大学バッファロー校（米国）、タフツ大学（米国）、カリフォルニア大学デービス校（米国）、コロラド大学コロラドスプリングス校（米国）、ルイジアナ大学ラファイエット校（米国）、ネブラスカ大学リンカーン校（米国）、レスリー大学（米国）、ハーバード大学（米国）〈計8機関〉
AA05	国立	信州大学	地域STEAM教育に関する国際共修人材育成プログラム	STEAM	オクラホマ州立大学（米国）、カリフォルニア州立大学テコ校（米国）、コーネル大学（米国）、カリフォルニア州立大学サクラメント校（米国）、テキサスA&M大学（米国）、カリフォルニア大学デービス校（米国）〈計6機関〉
AA06	国立	名古屋大学	微分型成長を重視した分野横断型日米協創人材育成	STEAM	ノースカロライナ州立大学（米国）、ミシガン大学（米国）、カリフォルニア大学ロサンゼルス校（米国）、ワシントン大学（米国）、ノースカロライナ大学チャペルヒル校（米国）、ジョンズホプキンス大学（米国）、デューク大学（米国）、チューレン大学（米国）、東ミシガン大学（米国）〈計9機関〉
AA07	国立	神戸大学	「食」を通して持続可能な世界を実現するグローバル人材育成のための異分野共修型国際プログラム	STEAM	ネブラスカ大学リンカーン校（米国）、ジョージア工科大学（米国）、ワシントン大学（米国）、ウェスタン大学（カナダ）、フィリピン大学ロスバニョス校（フィリピン）〈計5機関〉
AA08	国立	広島大学	AI時代の未来を拓く日米グローバル人材育成プログラム	DX	テキサス大学オースティン校（米国）、アリゾナ州立大学（米国）、パデュー大学（米国）〈計3機関〉
AA09	国立	宮崎大学、南九州大学、宮崎国際大学、宮崎学園短期大学	地域と世界を結ぶ「知」の循環：日・米・台・韓の地域からGXへ挑むグローバル人材育成事業	GX	ペンシルベニア州立インディアナ大学（米国）、エバークリーン州立大学（米国）、大葉大学（台湾）、台南応用科技大学（台湾）、順天大学校（韓国）〈計5機関〉
AA10	国立	琉球大学	インターアイランド・サステナビリティ教育プログラム	STEAM	ハワイ大学ヒロ校（米国）、ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ（米国）、ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ（米国）、国立東華大学（台湾）、中国文化大学（台湾）〈計5機関〉
AA11	私立	東日本国際大学、福島工業高等専門学校	未来へつながるコミュニティを創る日米大学間復興創生交流事業	STEAM	ワシントン州立大学トライシティーズ校（米国）、コロンビアベイسن短期大学（米国）〈計2機関〉
AA12	私立	関西国際大学	次世代DX環境における安全・安心な社会基盤構築とホスピタリティ・ビジネスの展開	DX	カレッジ・オブ・ザ・キャニオンズ（米国）、カレッジ・オブ・ザ・デザート（米国）、ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ（米国）、カリフォルニア州立大学フラトン校（米国）、バンクーバーアイランド大学（カナダ）、ウタラマレーシア大学（マレーシア）〈計6機関〉

整理番号	設置形態	申請大学名（代表申請大学）	事業名	分野	相手大学等名
AB01	私立	関西大学、東北大学、千葉大学	Blended Mobility Project (BMX) で生み出す「Society5.0人材」の育成とそのインフラの創出	STEAM GX DX	<p>クレムソン大学（米国）、コーネル大学（米国）、デポール大学（米国）、ニューヨーク州立ファッション工科大学（米国）、フロリダ国際大学（米国）、ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ（米国）、ノースカロライナ州立大学（米国）、北アリゾナ大学（米国）、ポートランド州立大学（米国）、オハイオ州立大学（米国）、ノースカロライナ大学チャペルヒル校（米国）、ハワイ大学ヒロ校（米国）、ハワイ大学マノア校（米国）、サンパウロ州立パウリスタ大学（ブラジル）、ウェスタン大学（カナダ）、ケバンゲンサン大学（マレーシア）、サン・ペドロ・カレッジ（フィリピン）、南洋ポリテクニク（シンガポール）、CEUカルデナル・エレーラ大学（スペイン）、東呉大学（台湾）、バンヤピワット経営大学（タイ）、カリフォルニア大学（米国）、ペンシルベニア州立大学（米国）、ノースカロライナ大学シャーロット校（米国）、ペイラー大学（米国）、ワシントン大学（米国）、モンタナ大学（米国）、テンブル大学（米国）、ウオータールー大学（カナダ）、マラヤ大学（マレーシア）、アラバマ大学（米国）、シンシナティ大学（米国）、ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校（米国）、ニュースクール大学（米国）、レジャイナ大学（米国） （計35機関）</p>

令和 5 年 10 月 12 日  
東日本国際大学・福島工業高等専門学校

令和 5 年度大学の世界展開力強化事業-米国等との大学間交流形成支援-  
(文部科学省事業)の採択について

事業名称

未来へつながるコミュニティを創る日米大学間復興創生交流事業

事業年度

2023 年度～2027 年度

総事業規模予定

122,320 千円

(補助金申請額 100,290 千円、内令和 5 年度交付内定額 24,690 千円)

申請大学

東日本国際大学

- ・事業者 : 緑川浩司 (学校法人昌平齋理事長)
- ・申請者 : 中山哲志 (東日本国際大学学長)
- ・事業責任者 : 中村隆行 (東日本国際大学副学長)

国内連携大学等

福島工業高等専門学校

一般社団法人福島浜通りトライデック

米国相手大学等(ハンフォード地域)

ワシントン州立大学トライシティーズ校

コロンビアバイスン短期大学

ハンフォードトライデック

交流プログラムの目的

福島浜通り地域と米国ワシントン州ハンフォード地域は、原子力開発から生じた課題をどのように克服し、地域コミュニティを復興・持続させるためにどのようにイノベーションを起こすかという共通課題を有する。

福島浜通り地域では、東日本大震災・福島第一原子力発電所の事故から 12 年が経過した。福島イノベーション・コースト構想、福島国際研究教育機構等の復興創生事業が順次進められており、本事業を構成する東日本国際大学は人文社会学分野の知見と国際連携の蓄積を、福島工業高等専門学校はビジネスと工学の融合に基礎を置いた創造的実践力の開発力を活かし、復興のための教育プログラムの開発と実施に努めてきた。しかしながら、避難指示が解除された地域でも住民帰還率は上がり、その背景に、将来を担う若い世代にとって、地域を一層魅力的なものとする復興創生の在り方が必要だという現状がある。

他方、この課題に先行して取り組んできたハンフォード地域は、現在、全米でも有数の繁栄した地域となっている。だが以前の同地域には、1944 年から 1989 年に至るプルトニウム精錬による深刻な放射能汚染という課題があった。冷戦終結後、米国エネルギー省、米国環境庁及びワシントン州エコロジー部の三者間で締結した 1989 年の三者協定を基に、ハンフォード・サイトのクリーンアップ事業（除染事業）だけでなく、産官学が連携し地域コミュニティの復興創生のための新事業の立ち上げや、国立パシフィックノースウェスト研究所が中心となり今回の事業で連携する地域の 2 大学と連携して STEM 教育の充実を行うことで、これを乗り越えてきた実績がある。

今回の事業では、類似の課題を抱える両地域に立地する高等教育機関の所属学生を中心として、次のような段階的教育プログラムをコアプログラムとして設置することで、オンライン交流を着実に実交流に繋げる仕組みを構築することを目的とする。

## 交流プログラムの内容

### Module I (地域を復興創生することを学ぶ)

- ハンフォード復興創生学(ハンフォード 2 大学等が実施)
- 福島復興創生学(東日本国際大学、福島工業高等専門学校等が実施)
- 国際共修ワークショップ(日米大学等が共同で実施)

### Module II (地域をあたらしく創ることを学ぶ)

- 国際地域実習 I (ハンフォード 2 大学等が実施)  
福島の子生がハンフォード地域へ行き、現地の学生と共に地域イノベーションの歴史と現状を学ぶ。
- 国際地域実習 II (東日本国際大学、福島工業高等専門学校等が実施)  
ハンフォードの子生が福島浜通りに来て、福島の子生とともに地域イノベーシ

ヨンの歴史と現状を学ぶ。加えて、この教科の中で、広島・長崎派遣研修も実施する。

○ 国際インターンシップ

福島学生はハンフォードで、ハンフォード学生は福島で、それぞれインターンシップを行う。

交流プログラム達成目標( )は福島高専生で内数(福島学生)

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	合計人数(人)
実際に渡航する学生	6(2)	9(3)	11(3)	8(2)	6(2)	40(12)
オンラインで受講する学生	-	34(6)	36(8)	36(10)	38(10)	144(34)
合計人数	6	43(9)	47(11)	44(12)	44(12)	184(46)

(ハンフォード学生)

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	合計人数(人)
実際に渡航する学生	-	4	6	4	4	18
オンラインで受講する学生	-	12	18	24	24	78
合計人数	-	16	24	28	28	96

学生主体の国際交流プログラム

- オンライン交流スペース
- 学生企画のためのプラットフォーム仮想「しゃべり場」(オンライン)
- 学生企画交流プログラム「地域の魅力を語る」
- ホームステイ型(居住空間共有型)学習

他の主な事業内容

- オンライン(「JV-Campus」等)を活用したプログラム
- 履修証明プログラムとしてオープンバッジによって証明されるマイクロクレデ



ンシャルとして構成

- 日米間国際シンポジウムの開催(年一回)
- 学生の英語力向上(評価基準として EnglishScore 及び BEVI を活用)
- 「地域連携協議会」の設置(福島浜通りトライデックが対応)
- ハンフォード大学と単位互換に関する体制整備
- 「世界展開力強化事業は推進会議」の設置(福島高専と共同)
- 「ハンフォード同窓会(仮称)」の設置
- 「世界展開力強化事業」専用ウェブページの設置(東日本国際大学で対応)
- 「日米間担当教職員連絡調整会議」の設置

#### 令和 5 年度補助対象経費(24,690 千円)の概要

- 物品費 (7,729 千円)
  - ・日米間交流用接続機器、BBC 受信用機器等
- 人件費・謝金 (4,530 千円)
  - ・新規採用教職員人件費等
- 旅費 (2,910 千円)
  - ・福島・ハンフォード教職員用
- 外注費 (4,261 千円)
  - ・JV-Campus 教材収録・編集費、動画翻訳費、シンポジウム通訳費、Web サイト構築費、BBC 受信料等
- その他 (5,260 千円)
  - ・福島学生実渡航支援経費、EnglishScore・BEVI ライセンス料、オープンバッジ初期費用等